

## 第24回 今後の治水対策のあり方に関する有識者会議 議事要旨

平成24年6月26日（火）18:00～19:55

中央合同庁舎3号館 11階特別会議室

### 【出席者】

中川座長、宇野委員、三本木委員、鈴木委員、辻本委員、道上委員、山田委員、奥田副大臣、津川政務官、関水管理・国土保全局長

### 【ダム事業の検証の検討結果について】

○今回は、検討主体から国土交通大臣に報告された足羽川ダム、駒沢生活貯水池、黒沢生活貯水池の検討結果について説明を受け、有識者会議から意見等を述べた。

○委員の主な発言は以下のとおり。

- ・足羽川では、河川整備基本方針に関しては様々な降雨パターンを考えて策定しており、河川整備計画は戦後最大規模の洪水（平成16年7月）を目標としている。河川整備基本方針、河川整備計画に対応する足羽川ダムの洪水調節について、わかりやすく示すことが重要ではないか。
- ・堤防のかさ上げを行って現計画より計画高水位を高くするような治水対策案は、計画高水位以下で洪水を流下させるという点において、現計画と同程度の安全を確保していると考えられるのではないか。この点については、現計画と比べて計画高水位が高くなり、堤防が決壊した場合のリスクが高まるということではないか。
- ・「おそれがある」「可能性がある」等の表現を用いて評価するのは工学的でないという印象を受ける。この点については、できる限り具体的に記述しようとしても、これからの対応が必要な段階であり、このように記述せざるを得ないものもあると考えられる。

- ・堤防をかさ上げしても、同じような堤防の法勾配であれば安全性は同じとの考えがあるが、これは地盤工学的に間違っており、安全性は下がる。しかし、そのことが、堤防は危ないという誤解を与えている場合がある。そのような誤解を与えないよう、堤防が危険だということではなく、リスクが高まると言うべきである。
- ・足羽川ダムの場合、洪水時に堆砂するのはウォッシュロードが大部分と考えてよいのではないか。
- ・流水型ダムは、運用している事例が少なく、現時点においてはシミュレーションを行って堆砂計画を検討することでよいが、モニタリングを行っていくことが重要である。
- ・長野県の駒沢生活貯水池と黒沢生活貯水池は「中止」という内容であり、従来からの手順や手法等によって検討がなされた。これらは、「中間とりまとめ」についてのパブリックコメントを行った際に有識者会議が示した考え方に沿って検討されたものであると理解できる。
- ・近畿地整の足羽川ダムは「継続」という内容であった。これは、基本的には、中間とりまとめで示した「共通的な考え方」に沿って検討されたものであると理解できる。
- ・本日の有識者会議で各委員からあった御指摘等については、整理しておくことが重要である。必要に応じて、御指摘等を踏まえて、検討主体に確認し、その回答を各委員に伝えることとする。